

心と心をつなぐ
みなさん、こんにちは。フィリピンから来
ました、宮崎エルサです。
今日は、『心と心をつなぐ』というテーマに
いて、私の感じたことを話します。
今、私は介護職員をしております。三年になり
ます。利用者の方は、ほとんど自分からす
すんで来ている人達ではないので、家庭の事
情や看取りといて、もうすぐ死にゆく人の
ケアもします。安らかに安心して、あの世に
旅立つことかできるように援助すること、
私たちの仕事ですが、亡くなされた方も、いつ
までも悲しんではいられないのです。
私の勤める施設では、70数名の利用者の方々
がいて、少数のスタッフでケアをしていま
すから、これが現状なのです。
でも、連絡をして、きてくれた家族の方が、
安らかな顔で、ねむっている故人のすがたを
みて、「みなさん！ありがとうございます。ごさ
いしました。と言った下さると、私たちの心もや
すうぎます。

中途半端な気持ちで、介護の仕事に来る人は、おむつの交換がくさくて、できない、と言っ
てすぐに仕事をやめてしまいます。

私たちは利用者の方、一人一人を良く観察し

て、いつも何でおこっているのか？どうして

、あまりしゃべらないのか？何かしたいの

か？というのを、気にして対応しなければ

なりません。

いつでも、やさしくしてあげれば良いのでは

なく、たまには、私も伺っているのですか？も

うねて下さい、とおこることもあります。ほん

とこの家族のように接してします。そうする

と、いつもわかままな方も、心がつうじたの

か、はい、わかりました。もうねますと言っ

てねてくれます。

私の両親は、もうすでに亡くなって、いませ

んが、利用者の方を自分のお父さん、お母さん

んと思つて、心が通じるように、いつもかん

ばっています。

最後にみなさんにもお願いがあります。外国

人に声をかけられても、走って、にげないで
下さい。その場でこまっているのです。手ま
ねや、ゆっくり日本語でしゃべれば、その表
情で理解してくれると思います。心と心をつ
なぐことって、そういうことだと私は思いま
す。今日はありがとうございました。